

ルカの福音書 第 17 章 21 節

「そら、ここにある」とか、「あすこにある」とか見えるようなものではありません。いいですか。神の国はあなたがたのただ中にあるのです。

梅雨の終わりまでは大部さきである。夏のおとずれはなお先のことである。さらに、秋ともなればはるか先となる。そんなある日、外出しようと玄関先に出たら駐車場の扉にトンボが一匹とまっていた。季節外れの不思議な訪問としばらく見ていた。こちらの想定とは異なった訪問である。

神の国はどこだろうかと思い巡らし、到来の兆し、現象を捜していたかもしれない。神の国の到来を望んでいたでしょう。だから、「ほら、ここにある」とか、「あすこにある」とか見えるようなものではありません、と語ります。そこで会話が終わりません。むしろ、ここでもなく、あすこでもないところから肝心なことが聞こえてきます。

いいですか、と念を押すように語り始めます。いいですか、よく聞いてくださいと語ります。神の国はあなたがたのただ中にあるのです。思いもよらない、驚きの事実です。自分たちなりに神の国を見定めようと、こことか、あそこに、この兆し、あそこの現象に目を凝らしていました。しかし、神の国はあなたがたのただ中にあると言われています。

2022年6月24日